

ふる里のむかし

あじろ

2006

和白郷土史研究会

和白地域全景 昭和49年（1974年）



「国土画像情報（カラー空中写真）国土交通省」より合成

和白地域全景 平成17年（2005年）



平成17年4月撮影

序

私たちの古里和白（和白・美和台・和白東・奈多・三苦校区）の平野は約千年前までは大部分が博多湾の遠浅の干潟であり、高地の山野は、明治・大正のころまでは草刈り場であり、緑肥・薪炭、イカ付け柴の採取場でもありました。

そのうち草原は開墾され、遠干潟には汐止めの土堤を築いては土砂、堆肥、緑肥を運び入れて水田や畑地を作り、又その一部は良質と評判の「和白塩」の塩田を開くなど、ただ一筋に只今の生活のため、更には子のため、孫のため、国のためとの田畑の作り出しが、今日の平野部の姿であります。

学校の社会科に「先祖の苦勞を知ろう」という学習の一場面があります。今日郷土和白の地は急速な都市化により、上述のような父祖の苦勞並びに史跡、伝承の数々がまさに埋没しようとしております。「自分たちの郷土の歴史を知らずには本当の郷土愛は生まれまい、郷土愛なしでは地域社会、ひいては国家への愛情も生まれまい、更に根本的には家庭の融和も浅いものになろう」こうした想いから今のうちにと、当時の和白公民館長 岩崎三男先生（初代会長・故人）、歴史研究家 末信源蔵先生（二代会長・故人）を中心として志を同じくする者が相集まり、公民館の協力のもとに「和白郷土史研究会」を結成し今日に至りました。

和白郷土史研究会の結成後は

第一集 郷土和白の「筑前竹槍一揆」(明治6年)

第二集 ふるさとの昔「石像物語」

第三集 ふるさとの昔「和白塩」

以上三冊を印刷製本し配本希望の方々におわけして参りましたが、第四集は集大成する趣意から、私ども研究会はそれぞれ校区毎の研究班（大字 上和白、下和白、塩浜、三苦、奈多）に別れ、研究の成果を製本し更に以上の五大字を合本製本し発行することに致しました。

この冊子は私どもの雑学と口碑などに基づき編集致しましたので、誤説や失礼な箇所もあることと思います。皆様がたのご叱正とご指導によりまして、更に良きものにして頂きたいとお願いいたしますと共に、この冊子が多少なりとも郷土の皆様方のご参考になればと念ずる次第でございます。

最後に編集発行にあたりましては、各校区自治協議会の格段の御高配、御支援を賜り、又各公民館の並々ならぬご協力を頂きましたことに心から深く感謝申し上げます、厚くお礼申し上げます。

平成18年2月吉日 和白郷土史研究会
会長 堺 憲一

ふる里のむかし本文目次

第1章 上和白村の歴史	1
上和白の氏神 大神神社	2
大神神社造営記念碑	2
宮前一号古墳（高美台2丁目）	3
上和白 古墳時代（6世紀後半～7世紀）	4
香椎廟創建	7
立花城をめぐる攻防戦	8
龍華山 明覚寺（浄土真宗）	11
湯谷山薬師堂	13
上和白の石像物のお話	14
貴船神社（貴布祢宮）	15
棟札（裏面文）	15
上和白村の溜池の古記録	17
上和白村に塩田	17
上和白村略年暦（1）	19
筑前竹槍一揆	25
上和白明細書上	26
御免用出夫状況	27
地 券（土地所有権証書）	28
西南の役	29
参戦記念奉納額	30
国道更生路築道と感謝状	31
大蔵溜池に係わる紛争	32
和白高等小学校創立	36
上和白略年暦（2）	37
高藤溜池増築工事	40
豪雨のため高藤溜池堤防大決壊	40
高藤国有林払下げ	42
上和白耕地整理事業	42
上和白の農業	45
上和白大水害及び大蔵池余水	46
終戦前後	46
和白ゴルフ場	47
和白東校区	48
史伝、口伝、風物詩	51
上和白古墳	53
上和白少年団	55

めいらん（螟卵）採集の思い出	55
蛭狩り	56
春の小川	56
和白の晩春	57
第2章 下和白村の歴史	59
下和白の地名	60
下和白の遺跡と古墳	60
神功皇后 船繋ぎ松 相ノ浦の地名	62
唐ノ尾の地名	63
さやの神	63
長楽山円相寺と相ノ浦	63
安河内虎昌、下和白を領有	64
下和白・大神神社	65
殿様道	66
相ノ浦越し（道天越し）	66
四十ヶ浦	67
安河内家邸内の不動明王	67
相ノ浦香椎神社	67
若宮様	68
下和白の庚申堂	68
蒲池開	69
安河内家八十婆さん	69
下和白の六地藏	69
和汐小学校	70
和白村の役場	70
和白駅	71
道天池	72
許斐硝子工場創業と和白駅前地区	72
筑前新宮駅	73
和白駅前大師堂	74
福岡特殊ガラス工場創業	74
下和白の文教施設	75
美和台の誕生と名称の由来	76
第3章 塩浜村の歴史	79
塩浜ことはじめ	80
桂 潟	80
塩浜の歩み	82
桂ヶ崎山（塩浜の裏山）での戦	82

個人による製塩始まる。	82
久保田家先祖塩浜に來住	82
塩浜村の発足と五丁の名の由来	83
元禄築堤工事始まる。	83
黒田新續家譜	84
塩釜の歌	84
龍王祠	85
和白小学校旧正門東側の庚申塔	86
中村南軒先生寺小屋を開く	86
大暴風雨	86
御達の写	87
(欠略)取行心得	88
大水害	90
大暴風	90
沖の堤防着工	90
堤防大事業完了	93
和白塩	94
我が国初の全国戸籍調査	94
観瀾小学校開校	95
朝鮮蕪臺(菜種)の先駆者 太田和平 久保田伊七	95
塩浜「かねんて」	96
五丁川の「塩浜橋」	96
和白村発足	97
博多湾鉄道株式会社発足(宇美～西戸崎).....	97
奈多～土井間、奈多～西戸崎間着工	97
和白小学校第1号校舎新築	98
塩浜唯一の池(道天池)竣工	98
和白小学校 第2号校舎増築	99
製塩業終る。	99
和白小学校 第3号校舎増築	99
宮地嶽(津屋崎)線着工。	99
海の中道道路着工	100
新開(一ノ開)に試験飛行場開設。	100
7月末 大暴風雨	101
新開にキャバレー開業	101
九世 大山忠平翁の慶辞	101
新開築堤記念碑	102
県道改修	103
宗教・民俗・文化	104
四社神社	104

弘法大師像祭らる。	106
地藏堂の建立	106
波切不動尊	107
神理教神功教会発足	108
観世音堂の建立	109
口伝、風物雑記	110
久保田市右工門氏の話、二題	110
大正、昭和初期の「塩浜青年会」	111
青年宿	112
共同風呂のこと	113
江切り	114
競犁会	115
第4章 三苫村の歴史	117
・三苫の概要	118
1．三苫の由来	118
2．三苫和泉守基宣と森の屋敷	119
3．権宮司三苫氏と三苫郷	120
4．三苫の現代	121
遺跡と古墳	124
1．三苫永浦遺跡	124
2．三苫京塚古墳	127
3．轡水の由来	128
神社・寺院・史跡石造物	129
1．三苫綿津見神社	129
2．竈戸神社	132
3．須賀神社（舞神社）	132
4．黒津神社	132
5．若宮社	133
6．稲荷社	133
7．三寶大荒神碑	133
8．轡納山託乘寺	133
9．般若寺	135
10．久野貞右衛門重時（圓嶺宗覺居士）の墓	135
11．三苫虚空蔵菩薩	136
12．観音堂	138
13．文珠菩薩	138
14．青面金剛碑	139
15．唵縛日羅夜叉吽碑	139
16．七橋	140

17. その他史蹟石造物	140
綿津見神社の仏像群	142
三苦水道・三苦島	144
三苦に塩田を開く	146
三苦の溜池	148
三苦宮の下護岸工事	150
三苦の農業	151
1. 水田	151
2. 養蚕	152
3. 苺	152
4. 足踏式脱穀機と唐箕	154
5. 競犁会始まる	154
6. 三苦の耕地整理事業	155
7. 三苦土地改良事業	156
博多湾鉄道汽船株式会社 宮地岳線	158
第5章 奈多村の歴史	159
古代、中世、近世	160
1. 奈多の地名の由来	160
2. 奈多に伝わる古歌	161
3. 丸瀬山	161
4. 海の中道	162
5. 三郎天神御縁起抜書	163
6. 志式神社	164
7. 海印山 西福禅寺	168
8. 奈多の漁業・農業	171
9. 奈多の七不思議	172
10. 筑前八所松原	172
11. 博多八景	173
12. 奈多の宝塚	174
13. 奈多落雁	174
近代～現代	180
奈多の小字	180
資料編	203
和白塩	204
ふるさとの石像物.....	217
歴史比較年表	229
和白郷土史研究会のあゆみ	232